

2009 年 4 月 22 日

変わりつつある九州人の実態を浮き彫りに。

～電通九州、『九州生活者調査 2009』を実施～

株式会社電通九州（本社：福岡市中央区赤坂 1-16-10、資本金 4 億円、社長：中野正道）は、2009 年 1 月、九州 7 県に住む 20～59 歳の男女個人 2000 名を対象に「九州生活者調査 2009」を実施いたしました。

この調査は、九州人の意識や消費行動を詳細に把握し、データベースとして蓄積することにより、地域に根ざした効果的なマーケティング活動やコミュニケーション活動を行うことを目的に実施したものです。2000 サンプルを擁することにより、九州全体の傾向はもちろん、7 県の県ごとの違いや、九州人の中での性年代別など属性ごとの分析が可能となりました。さらに、九州と東京を比較できるよう、東京都の生活者 400 名に対する調査も同時に実施しております。

調査項目は、九州人の暮らしや消費動向に関する質問、メディア接触に関する質問、九州各県のイメージや県人意識に関する質問等、幅広いジャンルで構成されています。2009 年度の調査では、トピックスとして、九州新幹線、道州制、アジア意識など時代性の高い質問も盛り込みました。

2011 年の九州新幹線の全線開通などを控え、九州を取り巻く環境はこの数年間で大きく変化することが予想されます。当社は本調査を毎年 1 回、定期的実施することにより、九州の生活者の変化を継続的に分析していく予定です。

主な調査結果

- ◆支出マインドに世代間格差。楽観的な「20 代男性」。引き締め傾向の「20 代女性」「40 代男性」。
- ◆高感度商品への大きな購買意向。今後やりたいコトは「旅行」と「貯蓄」。
- ◆変わる九州の若者？ 20 代男性の 3 割が「お酒は飲まない」。6 割は「喫煙経験なし」。
- ◆高い九州への「永住意向」。課題は「働く場所が少ない」こと。
- ◆九州新幹線全線開通時の利用意向は 5 割強。利用目的は「観光」「温泉」。

※詳細は次頁以降を参照

[このリリースに関するお問い合わせ]

(株)電通九州 MP・CR局 プランニング 1 部（九州生活者研究班）小野、和久田、熊本 TEL: 092-713-2634

支出や消費に関する事項①

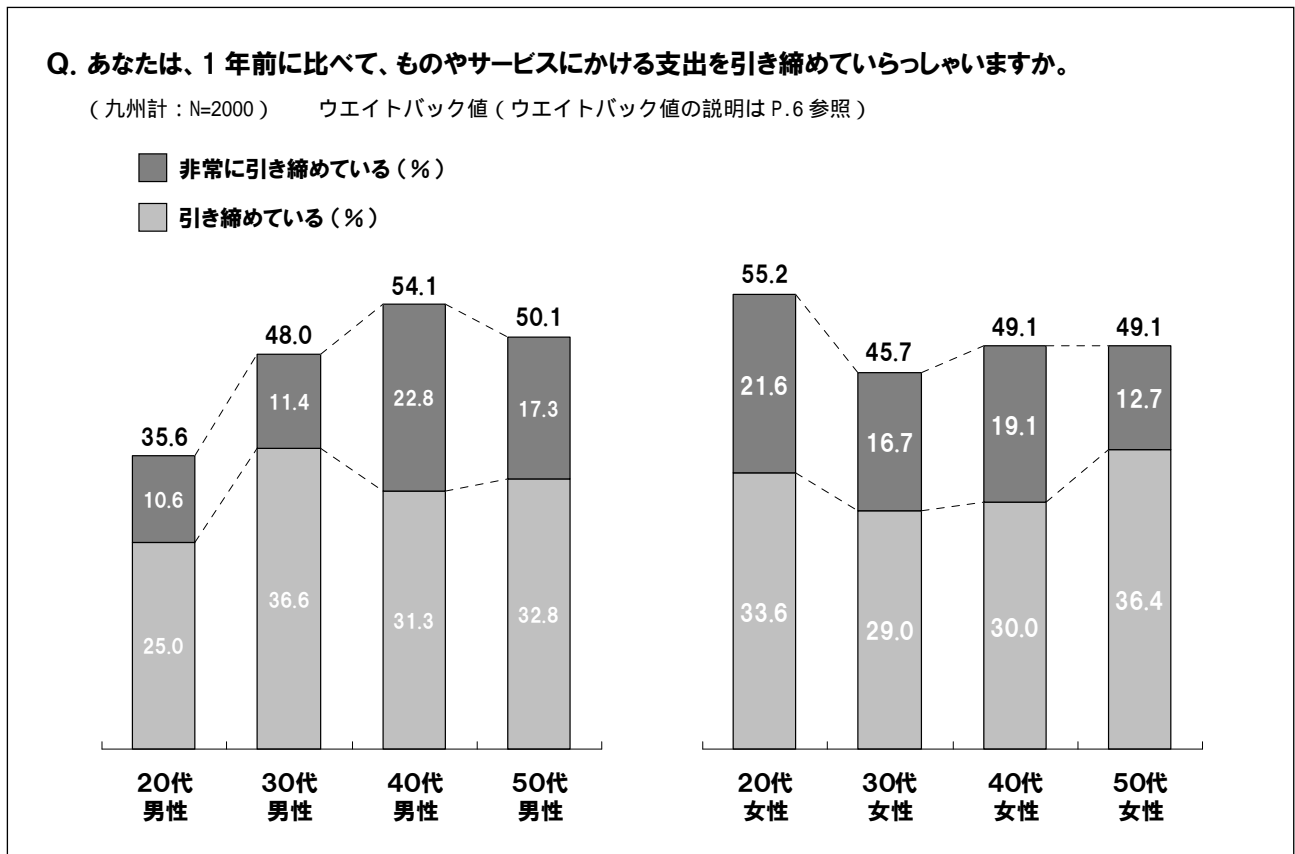
支出マインドに、世代間格差。

楽観的な「20代男性」。引き締め傾向が強い「20代女性」と「40代男性」。

同じ九州の生活者でも、支出マインドには年代による違いがあることが明らかになった。

1年前と比べて、ものやサービスにかかる支出を「非常に引き締めている」+「引き締めている」と答えた九州の生活者は、全体の48.4%と約半数。

それを、性・年代別に見た場合、最も支出に対して楽観的なのは「20代男性」。逆に、支出引き締め傾向が強いのは「20代女性」と「40代男性」であった。九州の消費活性化のためには、この2層のサイフの紐をゆるめることがキーになりそうだ。



【考察】支出引き締め層攻略のヒントは？

九州の「20代女性」は、お金に対して堅実で「貯蓄」好き。その反面、お金を使うときには使う、遊ぶときには遊ぶ、潔さも持ち合わせている。友人関係を非常に大切にし、インターネットによる情報発信も活発な彼女たちの消費を刺激するには、いかにこの世代に「共有できる喜び」を提供できるかが重要。

一方、九州の「40代男性」が今後欲しいものは、「ブルーレイディスクレコーダー(53.3%)」「地デジ対応大画面薄型テレビ(52.8%)」「電気自動車・エコカー(31.3%)」など。彼らは、家族志向が強いという傾向もでている。本人はもとより、家族がよろこぶ商品・サービスを提案することが消費活性化のキーとなるかもしれない。

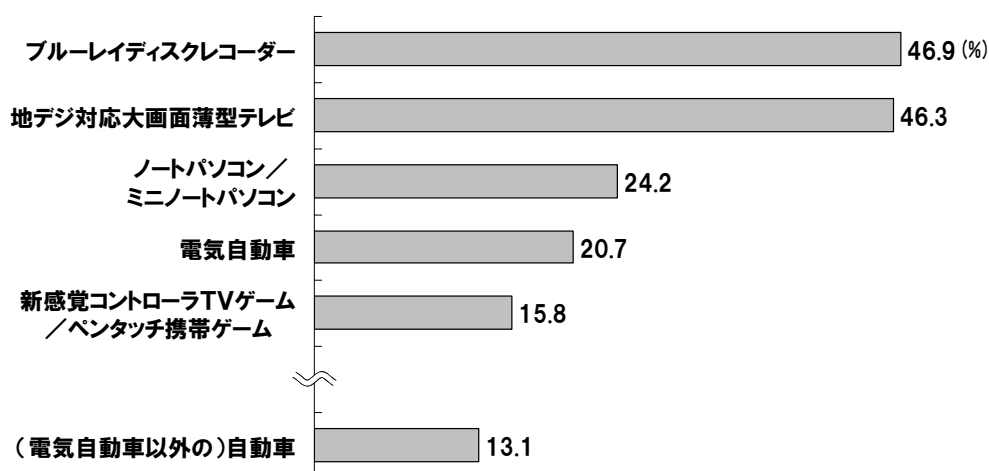
**高感度商品への大きな購買意向。
今後やりたいコトは「旅行」と「貯蓄」。**

今後の消費意向を「高感度商品」「やってみたいコト」の2つのカテゴリで聞いた。

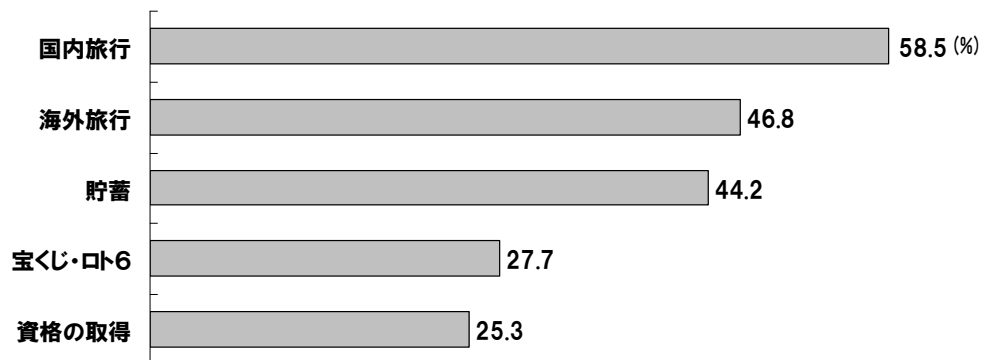
高感度商品についてみると、選択肢としてあげた16項目の中で、何かひとつでも欲しいと答えた人は、85.1%となった。特に「ブルーレイディスクレコーダー(46.9%)」「地デジ対応大画面薄型テレビ(46.3%)」の購買意向が高く、全国的に言われている「ウチごもり」傾向を裏付ける結果となった。また、電気自動車の購買意向が、それ以外の自動車の購買意向を上回った。

やってみたいコトに関しては「国内旅行(58.5%)」「海外旅行(46.8%)」の意向が高く、それに「貯蓄(44.2%)」が続く。貯蓄に関しては、20代~30代の女性の意向が特に高い。男性においては「株式投資」や「資産運用」などに高い関心を持っていることが伺える。

Q. 今後欲しい高感度商品 (九州計：16項目中の上位を抜粋)



Q. 今後やってみたいコト (九州計：15項目中の上位を抜粋)

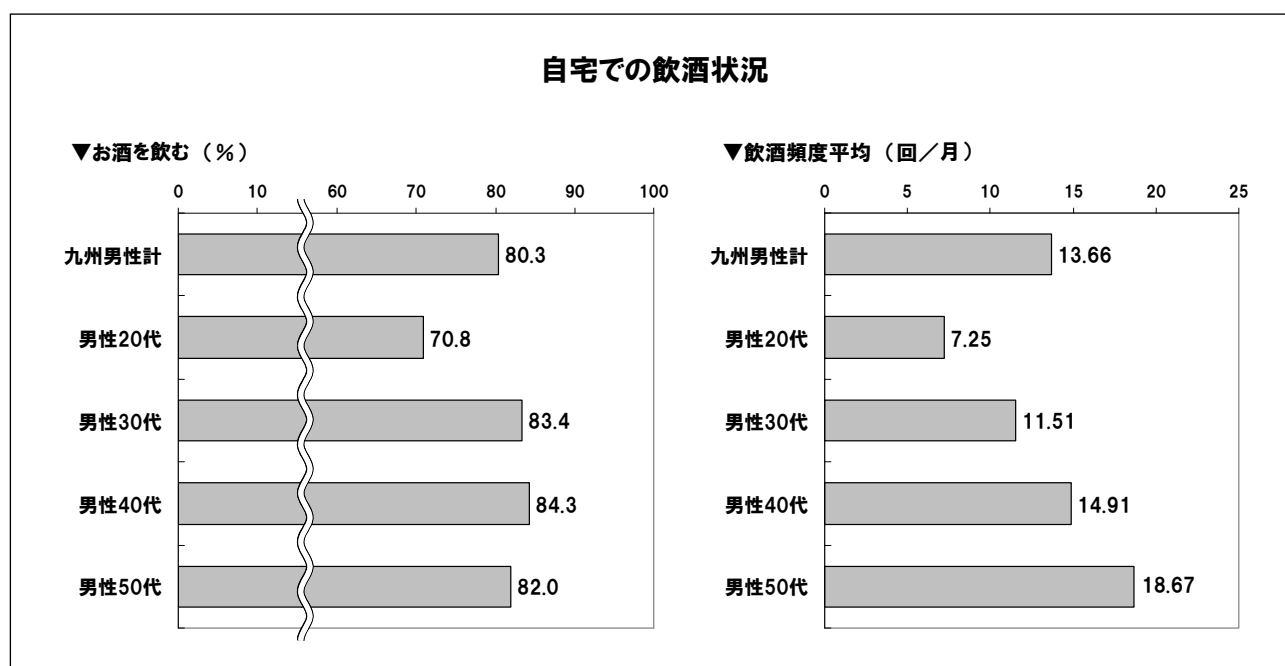


変わる九州の若者？

20代男性の3割が「お酒は飲まない」。6割は「喫煙経験なし」。

全国的に若い男性の酒ばなれ、タバコばなれが話題となっているが、九州でも同様の結果となった。

自宅での飲酒状況について見ると、九州の20代男性でお酒を飲む人は70.8%。20代女性の69.0%とほぼ同じで、30代以上の男性の飲酒率を10%以上下回っている。お酒を飲む人に絞った月平均の飲酒回数は、50代男性の18.67回に対し、20代男性は7.25回と半分にも満たない。



喫煙についても、九州の20代男性の6割は喫煙経験がない。現喫煙者は24.9%と、4人に1人。

	喫煙状況		
	喫煙経験有り	現喫煙者	喫煙経験なし
九州男性計	64.3(%)	34.7	35.7
男性20代	39.2	24.9	60.8
男性30代	57.5	36.0	42.5
男性40代	71.1	41.8	28.9
男性50代	83.9	35.5	16.1

九州への永住意向は高い。九州全体の生活満足度は東京と同レベル。

現在居住している県への永住意向は、九州7県の平均で76.4%。東京都民の東京都への永住意向(58.8%)を大きく上回った。一方、現在の生活に「満足している」人は、九州全体で49.0%であり、東京都の49.8%とほぼ同じ。

九州7県を県別にみると、永住意向、生活満足度とも、福岡県がトップで他県を引き離している。

	永住意向(*1)	生活満足度(*2)
九州計	76.4(%)	49.0(%)
東京都	58.8	49.8
(九州/県別)		
福岡県	84.0	53.6
佐賀県	68.8	46.8
長崎県	68.8	45.2
熊本県	69.2	43.2
大分県	73.2	47.6
宮崎県	71.2	47.6
鹿児島県	70.8	44.4

(*1)「永住意向」(%)は、現在住んでいる県に「ぜひ永住したい」「永住してもよい」と答えた人の合計
 (*2)「生活満足度」(%)は、現在の生活に「とても満足している」「満足している」と答えた人の合計

九州全体の地域イメージは、「食べ物がおいしく、自然が豊かで、住みやすい」。

課題は、「働く場所が少ない」こと。

九州人から見た九州のイメージとしては、ポジティブなものが多くあげられており、九州人は九州が好きなのが分かる。ネガティブなイメージとしては、「働く場所が少ないこと」などが上位にあげられている。これらが改善されれば、生活満足度もさらに高くなるものと推察される。

九州のイメージ		
[ポジティブ項目上位]	食べ物がおいしい	69.0(%)
	住みやすい	62.3
	美しく豊かな自然がある	60.9
	海の幸や山の幸に恵まれている	58.4
	ゆったりとしている	43.4
[ネガティブ項目上位]	働く場所が少ない	34.9
	寂れている/景気が悪い	22.1

九州新幹線の全線開通について

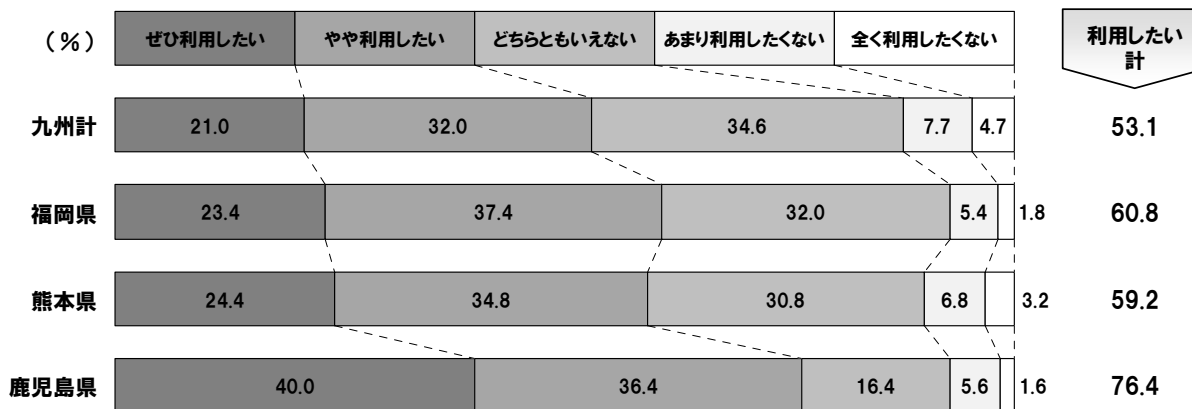
2011年の九州新幹線全線開通時の利用意向は、九州全体で5割強。
沿線3県(福岡・熊本・鹿児島)の期待は大きい。

九州人の97.2%が「九州新幹線」を認知しているが、開通時期(2011年)や開通後には福岡～鹿児島間
が1時間20分で結ばれることなど、全線開通に関する事柄の認知は全体の3割程度に留まった。
また、九州新幹線全線開通時の利用意向について「ぜひ利用したい」+「やや利用したい」と答えた人
は、九州全体で53.1%。鹿児島県(76.4%)、福岡県(60.8%)、熊本県(59.2%)では、さらに利用意向
が高い。

九州新幹線についての認知

	九州計	福岡県	熊本県	鹿児島県
九州新幹線を知っている	97.2(%)	98.4	97.2	98.8
全線開通は2011年の予定	33.6	33.4	60.4	60.0
全線開通時は、福岡～鹿児島間は1時間20分で結ばれる	27.4	27.8	34.4	49.2
2011年には新大阪～鹿児島まで乗り換えなしで行ける	26.9	28.4	39.2	44.0

九州新幹線全線開通時の利用意向



「九州新幹線」の利用目的は、福岡からは「観光」。鹿児島からは「ショッピング」。

九州新幹線全線開通時の利用目的を九州全体で見ると、「観光旅行」(52.0%)、「温泉旅行」(42.6%)が多く、以下、「日帰りレジャー」「仕事」「都心部へのショッピング」と続く。

福岡からは熊本・鹿児島方面への旅行のニーズが高く、鹿児島からは熊本・福岡方面への旅行と買物のニーズが拮抗している。中間地点の熊本においては旅行・買物・仕事などさらに多様なニーズがみられる。九州新幹線の全線開通は、観光需要の拡大を基軸としながら、上り・下りの双方で経済活性化の起爆剤となることが期待される。

九州新幹線全線開通時の利用目的

	九州計	福岡県	熊本県	鹿児島県
観光旅行	52.0(%)	61.0	46.0	43.6
温泉旅行	42.6	59.8	32.0	19.6
日帰りレジャー	18.8	18.6	26.0	25.6
仕事	13.4	12.6	20.0	19.6
ショッピング	12.9	1.2	24.0	46.0

電通九州「九州生活者調査 2009」調査概要

調査地域： 九州全域（福岡県・佐賀県・長崎県・大分県・熊本県・宮崎県・鹿児島県）
および、東京都

調査対象： 20～59歳の男女個人

サンプル数： 九州計 2000 サンプル
（福岡県 500 サンプル、福岡県以外の九州各県各 250 サンプル）
東京都 400 サンプル

調査方法： インターネット調査（株式会社電通リサーチ『ミリオネット』）

調査期間： 2009年1月19日（月）～1月22日（木）

調査機関： 株式会社電通リサーチ

集計について： 九州全体の傾向を把握するにあたっては、ウェイトバック集計を行っています。
ウェイトバック集計とは、回収された調査データを母集団の実際の構成比に合わせてデータに重み付けして集計することをいいます。
本調査では、「九州計」の数値について、九州各県の性年代の人口構成比に合わせた重み付けをしています。